

政策評価調書(21年度実績)

政策名	子育ての喜びを実感できる社会づくりの推進		政策の目的等	子育てに関する多様なサービスの提供や仕事と子育てが両立できる就業環境の整備、保健・医療体制の充実等により、子どもが心身ともに健やかに育ち、安心して子どもを産み育てられる社会づくりを目指す。	主管部局名	福祉保健部
	政策コード	II-2			担当課室名	こども子育て支援課

【政策を取り巻く社会経済情勢】

今後の動向	<p>平成21年の本県の出生数は9,961人で4年ぶりに1万人を割り込み、また、合計特殊出生率も1.50と5年ぶりに前年を下回るなど、これまでの回復傾向から一転して厳しい結果となった。(出生数及び合計特殊出生率は、厚生労働省発表の人口動態統計月報年計(概数)の概況値)</p> <p>少子化の進行は、子ども同士が切磋琢磨し、社会性を育みながら成長していくことを難しくさせるだけでなく、労働力人口の減少や経済成長の鈍化、地域社会の活力の低下など、社会全体へ広く深刻な影響を与えることから、これまで以上に子育てにかかる経済的負担の軽減や、子育て世代を社会全体で応援する仕組みづくり、子育てでも仕事もしやすい環境づくりなどの施策を重点的に推進することが重要である。</p>
-------	---

【政策を構成する施策の評価結果】

施策名		評価結果		政策との関連度
		業績評価	主管部局評価	
1	次代を担う子どもを社会全体で支える環境の整備	達成	拡充	◎
2	安心して子どもを産み育てられる保健・医療の充実	達成	拡充	○

【構成する施策に対する意見・提言】

<p>○中期行財政運営ビジョンへの意見(「安心・活力・発展プラン2005」推進委員会委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・親になった男性の子育てだけではなく、生んだ人、生めない人、生まない人も含め、社会全体で支える仕組みが必要である。</li> <li>・地域に子どもを預かってもらえる場所がない。事業所での保育も考えざるを得ない。子育て中の両親がしっかりと働けるよう、安心して子どもを預かってもらえる場所を早急に整備してほしい。</li> <li>・児童虐待への対策も重要な課題。周囲が関心を持つ必要がある。</li> <li>・「子育て満足度日本一」の満足度の目標をはっきりし、項目、程度など基準をつくって、それを確実に実行していくというやり方がいいのではないか。</li> </ul> <p>○「安心・活力・発展プラン2005」推進委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所や幼稚園に通っていない4、5歳児(全体の1.2%)への虐待ケアが必要ではないか。</li> <li>・子育ての中で「親づくり」の視点が欠けている。祖父母や地域との関わりなど日本の良き伝統の子育てを伝授していく仕組みづくりが大切。</li> <li>・「いつでも子育てホットライン」のフリーダイヤル化による利用者の負担軽減、十分な人員の配置、相談員の技術の確保・向上、広報の充実など、相談しやすい環境整備が必要ではないか。</li> </ul>	<p>○おおい子ども子育て応援県民会議</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的養護を必要とする児童が年々増加傾向にあることを心配しており、家庭を含め社会全体が子どもの健全な育ちを保証できなくなっていることが要因ではないかと考えている。</li> <li>・「生きる力」をつけた子どもの育成のため、保護者が子育てと仕事の両立が図れるような地域の社会資源を利用した取組の一層の充実が必要である。</li> <li>・安全で安心して子育てできる社会環境づくりのために、保育園・幼稚園・小学校・自治会・子供会等との支援ネットワークを構築する必要がある。</li> <li>・子ども子育て世代の親が、学校帰りや買い物帰りにフラッと立ち寄れるような子育て支援カフェ(子育て支援拠点)を町村単位で設立する。</li> <li>・専門的な支援を必要とする子ども達の施設の設置が必要である。</li> <li>・孤立しない子育て環境を創り出すための話し合える仲間と出会う場、話し合える仲間を増やすための信じ合える経験の場を設定することが重要である。</li> </ul>
--	--